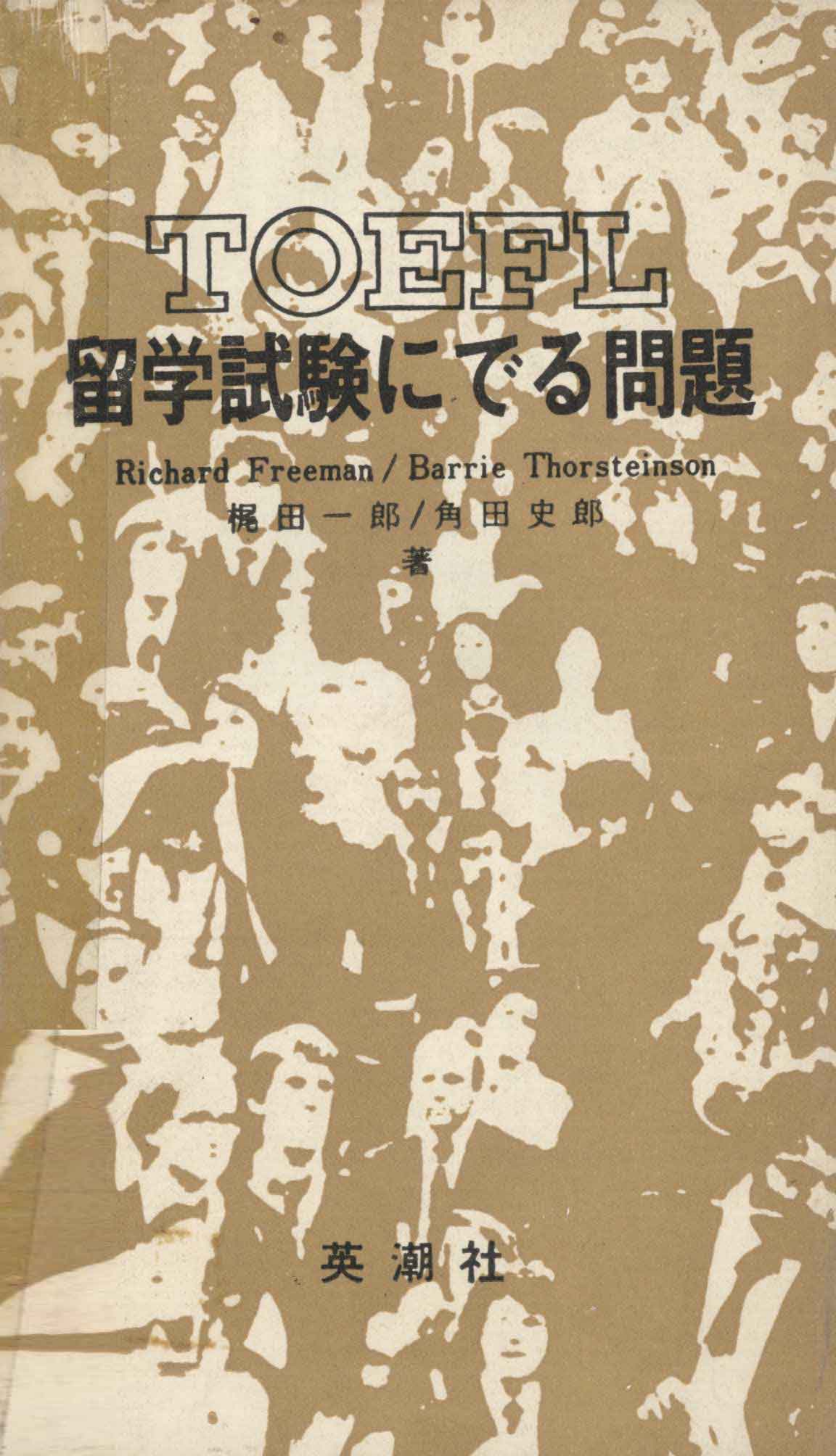


The background of the entire cover is a dense, sepia-toned photograph of a large crowd of people, likely students, looking in various directions. The image has a grainy, historical quality.

TOEFL

留学試験にでる問題

Richard Freeman / Barrie Thorsteinson

梶田一郎 / 角田史郎

著

英潮社

TOEFL

留学試験にでる問題

Richard Freeman

Barrie Thorsteinson

梶 田 一 郎

角 田 史 郎



東 京

英 潮 社

TOEFL 留学試験にでる問題 定価650円

著 者 **Richard Freeman**
 Barrie Thorsteinson

梶 田 一 郎
角 田 史 郎

発 行 者 近 藤 恆 夫

発 行 所 株式会社 英 潮 社

〒102 東京都千代田区飯田橋2-7-9

換印廃止 <S16—12B>

まえがき

ここ数年の間に、日本と米国の文化交流はますます盛んになり、日本からの留学生は年間四千人を超えるほどです。「これから渡米留学したい」「アメリカで英会話をマスターしてきたい」という日本人はその数倍にも達する数です。

渡米留学にはいろいろな方法があります。フルブライト奨学金とかハワイ大学東西センターの奨学金を獲得して、自分の研究分野をきめて留学する方法もあります。AFS (アメリカン・フィールド・サービス) やグルー財団の援助で留学する高校生もありますし、企業や団体から派遣されて、アメリカの研究所や大学で学ぶ人たち、個人的にスポンサーを見つけて渡米する人たち、アメリカでの生活費も学費も自弁でという留学生もあります。

どのような留学方法を目指すかは、個人によって違いますので一概には言えませんが、どの大学を留学先にするかは、いろいろな情報知識を得て慎重に考えるべきでしょうし、渡米留学のためには十分な準備と受験対策が必要です。このような留学希望者たちのためになる参考書として、できるだけ親切に書いてみようとしたのが本書です。

本書では、まず第1章で、留学先の大学を選ぶのに参考になる事項をいくつかに分けて挙げます。第2章では、奨学金のような公的な費用を獲得して留学できる方法について説明します。第3章では、奨学金を得て留学したい場合や特定の大学を志望する場合に、指定された試験を受けねばなりません。その試験の種類について解説します。日本人がアメリカの大学へ願書を出しますと、まず、Test of English as a Foreign Language (略称 TOEFL) を受けるようにと言ってきますし、フルブライト留学やハワイ大学東西センター留学を志望する場合でも、このTOEFLを受験するよう要求されます。このTOEFLについてもこの第3章で解説します。

さて、TOEFL とは実際にどんな形式のテストなのか、これを第4章で、問題の種類別に解説しましょう。ただし、このうち、

Listening Comprehension Test (聴取力テスト) は日本の学生がもっとも苦手とするところですが、活字にして説明するよりは、テープに入れたものを聞いていただいたほうが効果的ですから、英潮社オーディオプレス発行のテープ「TOEFL ヒアリング試験にでる問題」に吹きこんであります。これを購入して練習してください。Listening Comprehension 以外のテストは paper test ですから、本書の第5章を活用して、自分の英語の実力試しをするつもりで問題演習をしてください。本書によって練習を積み重ねておけば、実際に TOEFL を受けた場合、良好な成績が得られるはずです。

なお、アメリカの大学へ願書を出すときには、英文の推薦状を恩師か知人に書いてもらって送るのが普通ですし、自分の英文履歴書や英文の成績証明書と卒業証書も付けます。またアメリカ人の身元引受人を見つけて渡米留学する場合には身元引受保証書を付けることも必要です。これらの書式については、その実例を本書の付録に載せておきますから、留学志願手続の際に応用してください。

すでに、著者たちは 1968 年に「アメリカ留学試験——出題形式と対策——」を書きましたが、その後アメリカの大学への入学方法がかなり変化し、日本人は TOEFL を受験することがほとんど必須となりましたので、TOEFL 受験対策に重点をおく新装版を読者の皆さんに提供する次第です。

1975 年 秋

Richard Freeman

Barrie Thorsteinson

梶 田 一 郎

角 田 史 郎

目 次

はしがき.....	iii
第1章 留学する大学の選び方	1
§1 アメリカの大学.....	2
§2 College と University.....	2
§3 著名な大学とその所在地.....	3
§4 Graduate School (大学院).....	6
§5 Junior College (短期大学).....	7
§6 大学の教職員.....	7
§7 公立大学か私立大学か.....	7
§8 学年の分け方.....	9
§9 志望する大学について知るには.....	9
§10 志願先を紹介する機関.....	12
第2章 公費または奨学金による留学	15
§1 フルブライト奨学金による留学.....	16
§2 ハワイ大学東西センター留学.....	17
§3 日本学術振興会米国大学院留学.....	17
§4 公費以外の奨学金.....	18
第3章 どのような試験を受けるか	21
§1 客観テストについて.....	22
§2 英語能力試験 (TOEFL).....	22
§3 その他の各種試験.....	24
§4 大学院入試制度.....	25
第4章 TOEFL の問題の形式.....	27
Section I English Structure.....	29

Section II	Vocabulary	30
Section III	Reading Comprehension	32
Section IV	Writing Ability.....	35
第5章	TOEFLに備えて——問題演習	39
	The First Set of Questions	42
	The Second Set of Questions	83
	The Third Set of Questions.....	125
	The Fourth Set of Questions	163
付 録——	出願書類の書式.....	203
§1	推薦状の書き方とその実例.....	204
§2	履歴書の書式と実例.....	206
§3	英文成績証明書の場合.....	208
§4	卒業証書の英訳例.....	214
§5	米国大学入学願書請求書様式.....	217
§6	身元引受保証書書式.....	218
	Answer Sheets	

第 1 章

留学する大学の選び方



2 <TOEFL> 留学試験にでる問題

§1 アメリカの大学

アメリカの大学の起源は遠くヨーロッパに発しますが、現在ではアメリカ独特のものとなり、一般庶民のためのものであり、米国の建国の精神である民主主義をもっともよく発揮しています。アメリカの大学は少数の特権階級やエリートのためのものではなく、志願者の学力に応じ、また各自の好みにより、短大を含めて約 3000 校の中から自由に選んで志願することができます。

現在では、大学だけでなく、高校でも、職業学校でも、定められた手続きさえすれば、日本人が入学志願することができます。ただし、入学できるかどうかは、私立高校はやさしいですが、公立高校はかなりむずかしいです。アメリカに留学する外国人のほとんど半数は自国の大学学部を卒業して、graduate school (大学院) に学ぶ傾向にあります。日本人も、日本の大学を卒業してから留学した方が将来の就職その他の面で有利です。

§2 College と University

大体において college は単科大学であり、university は総合大学と訳せます。College の修業年限は建築科など 5 年という特例もありますが、原則的には 4 年です。

College は university の一部で、教養学科を主とする liberal arts college であることが多く、たとえば Harvard University における Harvard College のようなものであります。アメリカには liberal arts college はたくさんあって、これがアメリカの大学の特色と言ってよく、下級は教養科目に重きをおき、上級では専門学科を授けることもあって、bachelor's degree (文学士または理学士号) を出します。しかし College でも master's degree (修士号) や doctor's degree (博士号) を出す graduate school (大学院) も付設されていることがあり、college だから格が低いとか、university だから格が高いとか言うことはできません。個々の大学について論じたり、調べたりしなければなりません。

University は概して複雑な組織で、学生数も多く、一つまたは多くの college を含みます。学部は、たとえば School of Engi-

neering (工学部) と言ったりします。学部を分けて、たとえば Department of Electrical Engineering (電気工学科) と言い、さらに細分して Division と呼ぶこともあります。大学によって異なるので、catalogue を見て調べる必要があります。大学を institute と呼ぶ例としては、有名な Massachusetts Institute of Technology (マサチューセッツ工科大学) があります。主として工科大学を institute と言いますが例外もあります。

§3 著名な大学とその所在地

次に掲げる大学は、特に著名なものや、留学した経験者から聞いたり、参考書を調べたりして、有名な人材を出したような大学を選びましたが、この他多くの優秀な大学があります。設備がよく、構内は広く、日本人はこんな田舎にこんな立派な大学があると言って驚きます。出身の大学を誇りとする傾向はアメリカ人にもありますが、有名大学出身だと言って鼻にかけることは日本人ほどでなく、学閥意識は日本人のように強くありません。また日本人のようにやたらに出身校を人にたずねるということもありません。日本人留学生はある特定の大学に集中する傾向がありますが、いろいろな大学を調べて、かたまらずに留学するほうがよいでしょう。

Harvard University (所在地 Cambridge, Massachusetts 02138) 最古の立派な私立大学です。これと同じように、Ivy League にはいっている次の7私立大学も優秀大学です。(* 男子校)

Brown University, Providence, Rhode Island 02912

Columbia University, New York N. Y. 10027

Cornell University, Ithaca, New York, 14850

*Dartmouth College, Hanover, New Hampshire 03755

Princeton University, Princeton, New Jersey 08540

University of Pennsylvania, Philadelphia, Pennsylvania 19104

Yale University, New Haven, Connecticut 06520

4 <TOEFL> 留学試験にでる問題

上に劣らず著名な私大をあげます:—

New York University, New York, N. Y. 10003

Stanford University, Stanford, California 94305

University of Miami, Coral Gables, Florida 33124

The University of Michigan, Ann Arbor, Michigan 48104

University of Chicago, Chicago, Illinois 60637

女子大学として次の Seven Sisters が著名です。

Barnard College (Columbia の姉妹校) New York, N. Y.
10027

Bryn Mawr College, Bryn Mawr, Pennsylvania 19010

Mount Holyoke College, South Hadley, Massachusetts
01075

Radcliffe College (Harvard の妹姉校), Cambridge, Mas-
sachusetts 02138

Smith College, Northampton, Massachusetts 01060

Vassar College, Poughkeepsie, New York 12601

Wellesley College, Wellesley, Massachusetts 02181

このほかの有名な女子大学をあげます:—

Bennington College, Bennington, Vermont 05201

Sarah Lawrence College, Bronxville, New York 10708

Wheaton College, Norton, Massachusetts 02766

次に State University (州立大学) の著名なものと公立大学を
掲げます。

Indiana University, Bloomington, Indiana 47401

Michigan State University, East Lansing, Michigan 48823

Ohio State University, Columbus, Ohio 43210

Pennsylvania State University, University Park, Pennsyl-
vania 16802

University of California, Berkeley, California, 94720

(西部の Harvard といわれ Los Angeles その他に分校が
あります)

University of Hawaii, Honolulu, Hawaii 96822

University of Illinois, Urbana, Illinois 61801

University of Minnesota, Minneapolis, Minnesota 55455

University of North Carolina, Chapel Hill, North Carolina 27514

University of Texas, Austin, Texas 78712

University of Virginia, Charlottesville, Virginia 22903

University of Wisconsin, Madison, Wisconsin 53706

Rutgers, The State University, New Brunswick, New Jersey 08903

College of William and Mary, Williamsburg, Virginia 23185

The City University of New York, 535 E. 80th St., New York 10021 (公立大学でたくさんの College を含みます)

次に著名な工科大学をあげます:—

California Institute of Technology (Caltech), Pasadena, California 91109

Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, Pennsylvania 15213

Massachusetts Institute of Technology (M. I. T.), Cambridge, Massachusetts 02139

Stevens Institute of Technology, Hoboken, New Jersey 07030

次は大きな大学ではないが、古い歴史があったり、人材を輩出したり、優れた教育をしたりして著名なものです。(*男子校)

*Amherst College, Amherst, Massachusetts 01002

Antioch College, Yellow Springs, Ohio 45387

Bates College, Lewiston, Maine 04240

*Bowdoin College, Brunswick, Maine 04011

Brandeis University, Waltham, Massachusetts 02154

Carleton College, Northfield, Minnesota 55057

Colorado College, Colorado Springs, Colorado 80903

Grinnell College, Grinnell, Iowa 50112

Hamilton College, Clinton, New York 13323

Haverford College, Haverford, Pennsylvania 19041

6 <TOEFL> 留学試験にでる問題

Kenyon College, Gambier, Ohio 43022

Middlebury College, Middlebury, Vermont 05753

Oberlin College, Oberlin, Ohio 44074

Reed College, Portland, Oregon 97202

St. John's College, Annapolis, Maryland 21404

St. Lawrence University, Canton, New York 13617

Swarthmore College, Swarthmore, Pennsylvania 19081

Wabash College, Crawfordsville, Indiana 47933

Wesleyan University, Middletown, Connecticut 06457

Tufts University, Medford, Massachusetts 02155

St. Michael's College, Winooski, Vermont 05404

Williams College, Williamstown, Massachusetts 01267

§4 Graduate School (大学院)

アメリカの大学の学部は教養修得が主で, citizenship, わかりやすくいえば, アメリカ人としての国民教育を行うのです。

従って専門の教育は大学院で行うのが普通です。学士号を取ってから1年または2年 Master Course を修めます。工科, 経営学, ジャーナリズム等では2年は必要です。必修32単位のうち, 20単位は専攻科目修得で, 論文 (dissertation 又は thesis) を提出し, 口述試験を受けなくてはなりません。Master of Arts (M. A.), Master of Science (M.S.) の称号を与えられます。各科の成績はB以上でなければなりません。

Doctor Course は Master Course を終えてから, 2, 3年以上必要で, 専攻分野によっては, 4, 5年はかかります。博士課程では, 独, 仏, スペイン語のうち1カ国語或は2カ国語修得しなければなりません。研究が主となりますが, 講義を受けることもあります。独創的な研究に基づく論文の提出が必要ですし, 口述試験もあります。Doctor of Philosophy (Ph. D.), Doctor of Education (E. D. D.), Doctor of Science (Sc. D.) などとアメリカの学位称号はたくさんあります。

大学院は助手が必要であって, 多くの学生が助手となって給料を得て勉強できます。これを assistantship といいます。仕事の

例をあげると、学生の場合の採点、実験の助手などで、時々授業をすることもあります。中には、独立して研究を許されている助手もいますが、普通は上述の仕事をします。1週間10時間から15時間働くのが普通です。

§5 Junior College (短期大学)

アメリカには junior college が1000校ほどあり、そのうち7割は community (地域社会) が設立したものです。このような公立短大を community college と呼び、その地域社会の住民で高校卒なら無条件で入学できます。Junior college の修業年限は大体2年で、職業教育をするコースと、大学の3年に編入できるように一般教養科目を授けるコースもあります。授業料も比較的安く、外国人留学生もおります。卒業生には、たとえば Associate of Arts (得業士) というような称号が授けられます。

§6 大学の教職員

学長や総長は President と称しますが、Chancellor ということもあります。副学長を Vice-President といい、学部長は Dean と称します。学生主事は Dean of Students または Director of Students といい、入学選考主事 Dean of Admissions もあります。大学によりいろいろ違った職員が配置されていますから、手紙を送る場合に、宛名に注意する必要があります。教員の職制は比較的簡単で、Professor と Associate Professor (準教授) までは永久職であり、Assistant Professor は普通には数年の任期です。Instructor (講師) は1年契約が普通です。

§7 公立大学か私立大学か

公費や、一般公募とか、特定の大学から学資の給与を受けて留学する場合は、留学先の大学は自然にきまりますから、問題はありませんが、私費で行く学生は、自分で大学の選定をしなければなりません。従って充分時日を費して、大学を研究し、選ぶべきであります。短大を含めて約3千もある中から自分に最も適する大学を選び出すのですから、容易ではありません。歴史のある古

8 〈TOEFL〉留学試験にでる問題

い大学は、私立で、植民地時代に設立されたものであって、よくアメリカは私立の方がよいという人もありますが、これは明らかに誤解であります。州立や市立や、地域社会の公立大学は、今は大部整備されて、私立の優秀なものと、公立の優秀なものと比べて、教授陣と言い内容と言い少しも優劣はありません。公立の方が概して授業料は安いので、米人教授によっは、日本人は公立に行くべきだと言う人もあるほどです。

アメリカの生活費は、世界で最も高く、殊に大都会は諸物価が高いので、もし費用を節約したければ、地方や小都会の公立大学で学ぶべきでしょう。学科によってはある特定大学でなければ研究できないとか、前に言ったように、先方から学資を貰う場合は別として、最近はアメリカもインフレで、物価高になやまされ、授業料もどんどん上って行く傾向にありますから、本書に掲げる諸費用も一、二割高く見積って、留学先を考えて下さい。

次は 1973 年 College Entrance Examination Board 発行 Financial Planning for Study in the U.S. を東京の Fulbright 事務局から頂いたものより引用したものです。大学院はこれより少し高いと思って下さい。旅費や夏期休暇中の分は含んでいません。実際は各大学によって違いますから、必要があれば、直接問合わせるべきです。

	公立大学	私立大学
授業料	800ドル～2,000ドル	1,700ドル～3,300ドル
寄宿費	900ドル～1,500ドル	1,200ドル～2,000ドル
書籍 文房具費	150ドル～ 250ドル	150ドル～ 250ドル
雑費	500ドル～1,000ドル	500ドル～1,000ドル

寄宿舍でなく、大学構外で間借をすることができますが、一カ月一間 40 ドルから 60 ドル位で、土地により格差があります。シーツ、毛布数枚、タオルを持参し、電気、ガス代、電話料を払って、簡単な料理器具や食器を買う必要も起ります。台所やバスつきのアパートは、一カ月 100 ドル位から 250 ドル位までありま

す。間借でもアパートでも二人か三人共同で借りれば安上りになるわけです。自炊しなければ、大学の食堂で食べることになりますが、一年500ドルから1,000ドル位かかります。夏休みの分は除いてあります。大学の食堂は日曜は開きませんから、場合によっては、一日5ドルから6ドル以上かかると思います。そこで各自が要領よくうまくやったらよいでしょう。牛肉やパンは割と安いでしょう。

アルバイトは原則として、一年たってから許される規程ですが、土地に不慣れな外国人を雇うことはあまりないと思って下さい。

§8 学年の分け方

学年 (academic year または school year) は大体34週間位で、普通は9月か10月のはじめからはじまって、1年は semesters (2学期制), quarters (4学期制) または trimesters (3学期制) に分かれていますが、もちろん大学によって、それぞれ違います。夏期休暇は長いですが、学期と学期の休みは1週間位で、1月2日から授業というの也有りますから、各大学の catalogue (または bulletin とも言う) を見ればよくわかります。授業料の納め方も、1年、学期、course や単位によって納めるというこまかいの也有ります。

§9 志望する大学について知るには

もし現在授業を受けている先生か、前に受けていた先生の中に米国に留学した方がいられたなら、直接面会して尋ねるのが一番よろしいと思います。留学は遠い将来であるとしても、なるべく早く質問する方がよいです。先生に推薦状を書いてもらうことにもなりますし、アメリカでは先生に直接、接する機会が多いですから、あらかじめ準備をすることにもなります。

次にあげてあるのは、日本で留学の相談に行ったり、参考書を見せてもらったりする所です。普通土曜は休みで、アメリカの休日もありますから、電話か往復ハガキで都合を聞いた方がよいでしょう。東京付近はフルブライト委員会事務局がよいでしょう。

在日合衆国教育委員会 (Fulbright 委員会) 東京都千代田区永

10 〈TOEFL〉留学試験にでる問題

田町 2-14-2 山王グランドビル二階

東京アメリカン・センター 東京都港区芝公園 2-6-3 ABC
会館 11 階

札幌アメリカン・センター 札幌市中央区北 2 条西 12 丁目

京都アメリカン・センター 京都市上京区相国寺東門前町 657

大阪アメリカン・センター 大阪市北区梅田町 27 産経ビル会
館 6 階

名古屋アメリカン・センター 名古屋市東区泉 2-28-24 ヨコ
タビル 9 階

福岡アメリカン・センター 福岡市中央区天神町 1-3-36

以上の事務所には、留学の相談に応じてくれる counselor という係員や、米人もおり、参考書の外に大学の catalogue すなわち bulletin が備えてあります。アメリカの大学へ直接問合わせる前に、以下に述べる参考書により、志望する大学の学科, master course, doctor course と範囲をせばめて行くと大学の数はごく僅かにしぼられます。そうしたら選んだ大学のカタログを一冊か二冊徹底的に読みますと、アメリカの大学の内容がよくわかります。他の大学も似たりよったりですから、巻末の index で, scholarship や, fellowship, 助手となって働きながら勉強する assistantship, 日本で俗にいうアルバイト (student employment) もすぐわかります。カタログやブレティンは一見無味乾燥のようですが、なれるとなかなか興味が出るものです。在日合衆国教育委員会事務所から Japan Preliminary Application For Admission Form (米国大学入学願書資料請求書) を貰って、所要事項を記入し、正式な英文の成績証明書のコピーとともに大学へ送ると、数週間もたつとたくさんの資料と願書用紙を送ってくれるでしょう。正式に入学願書を出す場合は、10 ドルから 25 ドル位までの申込料を徴収されます。

以上あげた所には、たくさんの参考書やカタログの外、専攻科目によるまたは scholarship による大学の説明書もありますが、次にあげるものは便利ですからぜひ閲覧して下さい。

The College Blue Books

これにはアメリカはもちろん世界中の大学や、中等教育まで含